

＜青少年からの提言～北東アジア青少年環境シンポジウム 2006 参加者の提言～＞

☆ まずは、私たち一人ひとりが、できることから取り組みを始めていくことが大切です！

- ・野鳥が暮らしていける環境を保護するためには、きれいな川、海を取り戻していかなければならない。そのためには、私たちができることから始めることが必要。
まずはごみ拾いを継続し、植樹や花をいっぱい植えるなど、シンポジウムで学んだことを活かして自然とのかかわりを持って行きたい。
- ・私たちは政治家でも大企業の社長でもないから、環境を保全するために私たちができるとは、小さな身の回りの環境保全活動からはじめることが必要だと思っている。
みんなこまめに身近なことから取り組んでいきましょう。

☆ 学校や地域など、身近なところで行われている活動に積極的に参加していくことが大切です！

- ・私は、村の美化活動に参加して、様々な木の苗を植えたり花壇をつくったりしている。
- ・極東亀の研究に参加していた。今年は9匹の亀を育てて自然に帰した。多くの参加者は亀の数が減って分布エリアも狭くなったと感じていた。
- ・松の木が切られ、減ってきているので、エコクラブで植樹活動を行っている。植えることにより、わずかだが、数その分着実に増加するのはうれしい。皆さんも一人1本植えれば緑が増え、環境が豊かになります！
- ・学校周辺に白樺の森をつくる計画を作成した。その森にはレクリエーションの場と小さな池を作り、池にハスの花を育てていきたいと思っている。
- ・2005年に「自然に感謝する」という美化計画を立て、それに従って河川浄化やごみ拾い等の町環境美化事業を実施している。この他300本の松、61本の白樺などの苗を植えた。また、去年は極東蛙の卵を集め、卵を水のある河川に移動させる活動に参加した。

☆ 今、それぞれが行っている取り組みを、今後もずっと続けていくことが大切です！

- ・ハスの回復に力を入れている。去年は3つの湖にハスの苗を植えて、2箇所にはハスの花が咲いた。将来はハスの数を増やしてハスの地方と呼ばれるようにしていきたい。
- ・絶滅が近いといわれる薬草を育て、絶滅をストップさせるための研究をしている。また、自分の学校の森に、薬草の苗を植える活動も実施している。これを毎年続けることで薬草の種は復活すると期待している。

☆ 活動の輪をさらに広げていくことが大切です！

- ・私たちのエコクラブは環境保全事業に参加している。また環境美化活動にも参加している。参加している活動について、他の子どもたちにも伝え、出来るだけ多くの参加を呼びかけるようにしている。
- ・私たちは環境ファンドを設立し、市の環境美化に力を入れている。また、市民や学校への啓発活動やアンケート調査も実施しており、事業への参加者は毎回増加している。
また、きれいな水質を保護するための企画を作成し、スカウトのフォーラムで発表した。